



梅島小だより

2月号
令和8年1月30日
足立区立梅島小学校
校長 瀬谷 智代

春の訪れ

校長 瀬谷 智代

2月3日は節分です。節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言いました。今では、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけを言うようになりました。立春と聞くとすぐにも暖かくなってくるような気がしますが、まだまだ寒い日が続きます。

けれども、日の出の時刻は早くなり、日の入りの時刻は遅くなっていき、太陽の出ている時間は毎日少しずつ長くなっていきます。また、太陽の地平線からの角度も少しずつ高くなり日差しも強くなってきて、日中の明るさが増してきます。それでも気温は低いのですが、春の訪れを感じられるようになります。

一方、校庭の木々は、まだ葉がなく何の変化もないように見えます。でも、よく見みると、枝先にはたくさんの芽がついています。変わらないように見える木々も、しっかり張った根から水分や養分を吸い上げ、幹から枝々に送り花を咲かせたり葉を広げたりする準備をすすめているのです。

子供たちにとってもこの2月は、そういう時期です。1年生から5年生は進級に向けて、6年生は卒業・進学へ向けてそれぞれの学年の仕上げをする時期です。勉強や運動はもちろん、友達とのかかわりやあいさつなどの日常生活を振り返ることで、頑張ってきたことやできるようになってきたことを確かめ、自分の成長を感じることができます。さらに、得意なことは伸ばし、苦手なことは克服できるように1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

児童の下校について

下校途中、自宅に戻らず習い事に行っている児童がいるようです。危険ですので、自宅に一度帰り、親御さんの管理のもと習い事に行くようにしてください。



梅島小だより